

式辞に先立って、一つお話ししたいことがあります。

明日は三月十一日です。七年前のこの日、本校では午前中に卒業式が行われました。三年生の皆さんが小学校五年生だった時のことです。この日の午後に発災した東日本大震災によって、これまでに一万五千八百九十五人の方が亡くなり、二千五百三十九人の方の行方が分からないままになっています。避難生活を余儀なくされている方は、先月の時点で今なお七万三千人に及びます。被災地である岩手、宮城、福島の三県を除く避難先としては、埼玉県は東京都に次いで全国で二番目に多い、三千六百人余りの方々が暮らしていらっしゃいます。

東日本大震災は、遠い過去の出来事ではありません。家族や友人を失った方や避難している方々の悲しみ、苦しみ、痛みを、皆さん、どうか想像してください。そして、気持ちを寄り添わせましょう。自分たちに出来ることは無いか、思い巡らせましょう。

晴れの門出の日ではありますが、被災者の方々に心からお見舞いを申し上げます。

式辞

校内の樹々も芽吹き始めた今日、この春の佳き日に、さいたま市長 清水勇人様、さいたま市教育委員会教育委員 武田ちあき様、PTA会長 柳田由美様をはじめ、多くの御来賓の皆様、並びに保護者の皆様の御臨席を賜り、さいたま市立大宮西高等学校第五十四回卒業証書授与式を挙行できますことは、大きな喜びです。

二四四名の三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんの卒業を心から嬉しく思います。また、お子様をこれまで慈しみ育てて来られた保護者の皆様、誠におめでとうございます。立派に成長されたお子様の姿に、感激もひとしおかと拝察いたします。

さて、三年生の皆さんが本校に入学した四月に着任した私は、以来三年間、皆さんと同じ年月を、この大宮西高校で過ごして来ました。

その間、繰り返し皆さんに伝えようと話してきたことは、次の一点に集約されます。

それは「自分たちの未来をあきらめない、人任せにしない」ということです。今日は、三年生の皆さんへの私からの最後のメッセージであり、餞の言葉です。

「世界を、この世の中を、今よりもっと良くするために、これから自分に何が出来るか、何をしたらよいか」ということを、年越しの宿題として、三年続けて皆さんに考えてもらいました。そして皆さんのうち何人かに、代表して発表してもらいました。

「自分の考えや行動が世界を変えていくなんであり得ないし、大袈裟じゃない？」と思う人もいるでしょう。しかし、そんなことはありません。また、「自分のことだけで精一杯で、世界を良くするなんて考える暇なんか無いよ」と言う人もいるでしょう。しかし、それで良いのでしょうか。

なぜなら、皆さんが日々どういう心持ちで生活するかによって、皆さん自身の未来は違う道を辿るでしょうし、個人の集合体として成り立つ「世界」のあり様も、異なるものになっていくからです。

これまでに何度もお話ししてきたように、「たいしたことはできない」と「何もできない」は違います。「世界中の人々」とか「困っている全ての人」に対してはできなくても、自分の目の前にいる人にだったら、自分の身近にいる人にだったら、何かできるかも知れない。自分にできるその「何か」が、すぐに世界平和に結びつかなくても、人を優しい気持ちにさせるとか、思いやりの輪が広がるとか、ほんの少しずつでも、世界をより良い方向に向かわせることができるのだと、私は信じています。

自分一人の考えなんて所詮ちっぽけなもので、世界を変えることなんてできやしないと、あきらめてはいけません。自分が何もしなくたって、やる気のある誰かが上手くやってくれるだろうと、人任せにはしてはいけません。自分の、自分たちの、自分たちに続く者たちの未来をあきらめないこと、人任せにしないこと。そして、そのために自分には何ができるのか、何をすべきなのか、これからの生涯、常に自分自身で考えて、意識して行動してください。

そしてそれは、「いつかやろう」「明日からがんばろう」ではいけません。「いつか」とか「明日」が、誰にでも当然のごとく訪れる保証はどこにも無いのです。式辞に先立ってお話しした東日本大震災は、そのことを私たちに痛烈に突きつけました。

だからこそ、今日できること、今できることを、精一杯にやり切る。そうすることでしか、不確かな未来を、確かな現在に変えていくことはできないのだと思います。逆に、今日を精一杯に生きなければ、未来に続く明日は訪れないのだとも思います。あなた自身が今日という一日をどう生きるか、それによって明日は変わるのです。一日は一年であり、一年は十年であり、十年はやがて一生なのです。

そして、あなたの一生がどういうものになるか、それによってほんのわずかであっても世界の未来は変わるのです。

これが、卒業してゆく皆さんへ、大宮西高校が与える最後の宿題です。宿題の答えは、皆さん一人一人の中にあります。あなた方一人一人の未来にあります。あなた自身が、より良い世界の未来そのものなのです。そのことをどうか忘れないでください。

皆さんは、本校が数年後に中等教育学校へ改編されるということを承知で進学先として選び、入学してくれました。昨年からは工事が始まり、食堂がなくなったり、正門が使えなくなったり、色々と不自由な環境を強いることになる中で、皆さんは本校ならではの文化祭や体育祭、修学旅行や球技大会など、いくつもの学校行事に全力で取り組み、それらを存分に楽しみながら、己を磨き、仲間意識を育み、自らの進路目標に向かって努力してきました。

これまでに皆さんからは、そういった前向きに頑張っている姿をたくさん見せてもらいました。それこそが「西高の誇り」です。卒業してもなお、あなた方一人一人の前向きな取組のすべてが「西高の誇り」なのです。その「西高の誇り」をもっと広く、もっと大勢の人々に伝えていきましょう。

あなた方がこれからの人生の中で様々な困難に直面した時に、周りから「どうしてあなたは、いつもそんなに前向きに考えたり行動できたりするのか？」と訊かれたら、胸を張ってこう答えましょう。「だって大宮西高校の卒業生ですから。」

私は、私たち全ての教職員は、これからもずっと、今までよりもずっと、あなた方の活

動に、あなた方が作る「より良い世界の未来」に、期待しています。

結びに、これまで本校の教育活動に深い御理解と温かい御支援を下さいました御来賓の皆様、並びに全ての保護者の皆様に、心より篤く御礼を申し上げ、式辞といたします。

平成三十年三月十日

さいたま市立大宮西高等学校長 関田 晃